（1面からつづく）

本学学生が社会に出て求められる技能、資質とはなんであろうか。本学を卒業したのち、NTTデータで実際に活躍している新井奈奈さんとの対話から考えてみたい。

NTTデータではSIerとして社会の根幹をなすような仕組みを作ることも多い。システムインフラと呼ばれるそれらを実際にプロジェクトとして作る際、たくさんの関連する人や組織の協力が必要となる。その中で中心となって取りまとめを行い、仕組みを作りきるのがSIerであるNTTデータだ。

新井さんがNTTデータへの就職を志したのは彼女の学生時代のアルバイト経験にあるという。パン屋で働いていた彼女は、売り上げの報告や翌日の発注を毎日本社にあげていた。しかし端末が非常に使いづらいこと、そして、毎日のことなのに翌日のパンの発注の増減を考えなくてはならないことに疑問を抱いていたそうだ。これが、システムを変える企業であるSIerに興味を持つきっかけとなったという。

先に述べた通り、NTTデータはIT企業だ。しかし、IT＝プログラミングということではなく、実業務で直接プログラミングをしたことがない社員もいるという。これは、知識やスキルが無くて良いということではない。必要とされているのはプログラミングも含めたITの知識やスキルを持っている前提のコミュニケーション能力である。

NTTデータは、主にプライムコントラクタとして常に1000以上のプロジェクトを並行で進めていて、その中には数カ月で終わるものから数年をかけるようなプロジェクトも存在する。様々なシステムを作るプロジェクトがあるが、どんなプロジェクトも、一人でやることではなく、チームで実施するため互いの認識が一致していなければ無駄に時間をかけてしまうことになるし、コミュニケーションが不足している場合、使い物にならないシステムが出来上がってしまうこともあるだろう。仕事としてプロジェクトに参加する、あるいは進めていく上で、コミュニケーションは不可欠だ。本学の学生について「初対面の人と話すのが苦手」な傾向があると新井さんは語ったが、コミュニケーションは別に面白いことを言うことが必要な訳では無いとも話しており、真剣に向き合って改善すべきだろう。

また、本学学生の苦手なものとして英語がよく挙がると話題になった。新井さんも、学生時代にあまり勉強せずに後悔し、今改めて勉強し直している最中だそうだ。NTTデータではグローバルな展開を進めていて、プロジェクトによっては海外との交流もあるという。新井さんが参加したグローバル研修もその一つだ。海外メンバーを日本に呼んで、何か提案をするという研修である。そもそもNTTデータグループ約8万人の社員のうち、4万7千人は海外の人だというからこれは驚きだ。

NTTデータにおけるグローバル業務は直接海外で働く他にも、日本で海外の現地の人と共同で開発することもある。そのため、日本にいるから外国語は全く使わない、という訳ではないのだ。

新井さんは、本学学生にコミュニケーション能力や英語力も磨きながら「要領良く」乗り切ってほしいとアドバイスした。

書評

本格的な冬も始まり、学部3年生、4年生、大学院生が就職活動に励んでいる様子が見られる、そんな季節となった。そこで今回、朝井リョウ著の『何者』を紹介する。この作品は就職活動がテーマとなっている。10月に公開された映画の原本であり、また直木賞を受賞した作品でもある。

この作品では、主人公の拓斗、同居人の光太郎、光太郎の元彼女、瑞月、瑞月の留学仲間の理香、理香の恋人、隆良の5人が、主に登場する。性格も、就職に対する考え方も、それぞれ全く異なる5人が、就職活動という大きな壁を、お互い協力しあって乗り越えていく様子が描かれている。

最初に読んで感じたことは、登場人物の心情が上手く表現されていることだ。就職活動をするなかで試行錯誤を繰り返す5人の内心が、筆者独特の言い回しやその時の情景によってひしひしと伝わってくる。5人それぞれ考え方、物の捉え方、性格や個性の違いが分かりやすく描写され、非常に印象的だ。特に、心情の変化が詳しく書かれているのが主人公、拓人である。就活対策について話している時、日常の中における他愛のない話をしている時、あるいは企業に送るエントリーシートを書いている時など、主人公が括弧の中で話していること以外の心の声にも多彩な表現が取り込まれている。もし、自分が主人公であったらと想像して物語を読んでみるのも興味深いだろう。

またこの作品は、登場人物がツイッターを用いているところが、少し変わっている。ツイッターは、自分の思っていることを自由に表現できる、現代のコミュニケーションツールだ。就活で起こった出来事や、就活対策について5人で集まっている事を、ツイッターでつぶやく描写が、彼らをより一層最近の若者という雰囲気にさせる。ツイッターが頻繁に利用されているため、現代という時代に必死についていこうとする様子も読み取れた。登場人物の心情を表現するツールとしてツイッターを取り上げている点は、非常に魅力的と言える。

現代における、就活に対する考え方の多様さ。アピールできる自身の長所を必死に探し、現実に目を背けることなく立ち向かっていこうとする彼らの姿勢。現代ならではの表現が多く用いられることによる若者の心情。これら三つに着目してこの作品を読めば、より素晴しい作品だと思えることは間違いない。

IT業界の下請け構造

用語説明

・プライムコントラクタ

システムを作る際に、顧客と直接、企画や要件の調整を行い、プロジェクトを推進する企業のこと。特に大規模なシステム開発では一般的にプライムコントラクタが受託した案件を、品質を確保するために適切な単位に分割し、分割した単位ごとに協力会社に委託して開発を行うことが多い。

・システムインテグレーション

IT技術を用いて作るシステムの企画、開発から保守、管理までをまとめあげ、機能させることを指す。それを行う企業、業種をシステムインテグレーターと言い、SIerと略される。

・オフショア開発

(自国の)海岸(shore)から離れて(off)が原義。自国から離れ海外での開発を行うこと。実装は海外、サポートは国内など分業することも多い。

あらい　な　な
新井　奈奈

東京理科大学工学部経営工学部卒業
現在、株式会社NTTデータ第三金融事業本部に勤める。

マヤー・シストラー(4)

作：関ひだり

「イリエナ・ルキーニシュナ、君のご友人が、君がここにいるだろうと教えてくれたんだ」

アンドレイ・イリイチはゆっくりと近づいてきた。

「どうして今さら戻ってきたの、アンドリューシェンカ！」

姉が、彼には聞こえない声で問いかけた。姉の表情には、再会できた喜びや安堵ではなく怒りと失望が浮かんでいた。

「あなたは、私の姉が事故に遭ってすぐ行方をくらました……」

私はアンドレイに姉の気持ちと言葉を代弁した。彼は静かに聞いていた。

「……裏切り者」

それきり姉は黙ってしまった。少し間があって、アンドレイが口を開いた。

「確かに僕は逃げ出した。弁解の余地もない。でもそれは、リューバの死を受け入れられなかったからなんだ。僕は旅をした。もしかすると、どこかにリューバがいるんじゃないかって」

アンドレイは震えていた。姉は無言のままだった。

「でも気付いたんだ。現実を受け入れなければ、と。それで、帰国して、まっすぐここに来たんだ」

アンドレイは一拍置いて、

「あの人の妹である君に言うのも恥ずかしいけれど、僕は今でもリューバを大切に思っているよ」

「リエナ」

不意に姉が私を呼んだ。姉は光に包まれていた。

「私は、彼の本当の気持ちが知りたかった。たった今、それが果たされたの」

光がだんだん強くなり、姉は光そのものになろうとしていた。

「ありがとう、リエナ。そして、アンドリューシェンカ……」

光がひときわ強く輝き、消えた。突然の出来事で、私は何も言えなかった。

「今の声は」

アンドレイは光が消えたあたりを見つめて呟いた。

「いや、まさかね」

＊　＊　＊

その後アンドレイと別れ、私は帰宅した。鍵を開け、ドアノブに手をかけたところで、改めて姉がもういないということを思い出した。優しくて、賢くて、時々邪魔臭くて、それでもやはり頼りになって。世界でたったひとりの私の姉（マヤー・シストラー）。その人は、もういない。涙を堪えてドアを開けた。

「おかえり」

私の椅子に座った見慣れた女性が私に笑いかけた。まるまる一分間、私たちは見つめ合った。

「お姉ちゃん？」

「何、リエナ？」

再び沈黙。

「どうして。未練が消えたから、もう戻ってこれないんじゃ……」

姉はため息をついた。

「未練が消えたって、一つだけよ。私にはもっとたくさん未練があるの。あなたの成長も見届けたいし、何よりあなた一人置いていくなんて心配だわ」

私は、もはや涙を堪えきれなかった。

「おかえり」

姉が優しく微笑んだ。私は精一杯の笑顔で返した。

「ただいま」